夕焼け通信 1368号　2022.9.19
〒690-0823　島根県松江市西川津町4276-B402　gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/　編集 宮森健次

専業ババ奮闘記（その2）114

木幡智恵美

秋（3）

土曜日は、児童クラブを休む寛大と一緒に玉湯の家で留守番をすることがほぼ定着。娘が休みの土曜日は、我が家に子どもたちを連れてくることもあるけど、それは月一回くらいだ。

九月も後半に差し掛かった土曜日、百均で買った紙粘土で寛大と塑像を作ることにした。

急に髪を切ってくれという息子の散髪をし、何とか七時に出発。玉湯に着いたら、いつものことながら、まだ孫たちは食事中だった。こんなに早く行くのは、この時間帯、玉湯の家は朝の支度でごった返しているからだ。寛大は食べるのは早いけれど、それからが動かない。実歩は、お手伝いもよくし、手がかからない子なのに、食事がなかなか進まない。一度、実歩のクラスがコロナによる閉鎖になって子守をした際、昼食を食べ終えるのに四十五分かかった。宗矢は食べては動き、覚えたての「まんま」など言うのでご飯が進まない。何とか実歩と宗矢に食べさせると、今度は歯磨き、顔洗い、着替えが待っている。娘はその間に、子どもたちに指示しながら、食器の片づけ、ゴミの始末、検温をし、ノートに記載するなど動き回っている。やることをすべてし終えた実歩と宗矢を外に連れ出し、プランターや鉢への水やりをし、娘の車に乗せて送り出すとほっと一息。家に入って、寛大の宿題を見てやるというのがいつものパターンだ。

この日は、宿題をした後、段ボール箱を広げて下敷きにし、その上に紙粘土の袋を二つ乗せた。袋から白い塊を取り出し、まずはほぐし、次に練っていく。台所にあった小さいプラスチック容器に紙粘土をちぎってつけていく。「ババ、何作ってんの」と聞くので、「おばあさん」と答える。「こうして粘土をくっつけていくんだよ」と見せていると、寛大も思いついたようだ。傍に転がっている模型を見て、「トリケラトプス作るわ」と言う。それならばと、台所にあった少し大きめの容器を持って来て、それに粘土をくっつけていった。爪楊枝なども使い、一時間半ものあいだ一心不乱に作っている姿を見ると、一時工作にのめりこんでいた我が長男を思い出す。出来上がったトリケラトプスは、三本角を持ち。太い脚で立つ堂々とした姿だ。「次の土曜日は色を塗って、その次はニスを塗ろうね」と約束した。

がらがら橋日記

宮森健次

中海の畔にて　2

この畑からは中海は見えないのだが、まばらに立ち並んだ家の向こうには、大山とともに大きく広がっているはずである。黒々とした土は、ほくほくしていて、思わず「いい土だなあ」とつぶやいたら、聞こえたらしく、

「そりゃそげだわね。金かけちょうもん。」

と来年後期高齢者となるMさんが笑った。

Mさんのところに手伝いに通い始めたその日に、畑を貸すからダイコン播いたらいい、と言われた。畑とはいえ人の土地を借りるのだから、気楽に返事するようなこととは違うだろうという気がして、はいともいいえともはっきり言わずにしばらく様子をうかがっていたのだが、Mさんはぼくの迷いなどまったく気にとめず、収穫までの段取りやら、土作りの手順などを勢いよく説明し、ふんふんと相づちを打っているうちに、どうやら貸借契約が成立してしまった。

以前、奥出雲で借りた住宅には十坪ばかりの畑があって、せっかくだからと見よう見まねでトマトやらキュウリなど作ったことがある。後から考えれば、何年か休耕期があったからなのだが、何でもおもしろいように実った。それですっかり勘違いしてしまい、植えときゃ育つ、となめきっていたら、翌年からガタンと収穫が落ちた上に病虫害で散々な目に遭った。それでも土や植物に触れているとそれだけで時の質がぐんと豊かになるのを感じていたので、いつかまたできたらと思っていたところに天恵があった。

「ここでは私が先生だけん。」

と言って畝の作り方を実演するMさんを見ながら、まったくの初心者としてMさんに従おう、ちょっとかじったことがあるなどという思い上がりは厳禁だぞと思う。鍬を受け取って隣に畝を作る。

「せせこましいことしなさんな。」

顔は笑っているのだが、先生から容赦ない叱責が飛んだ。きょとんとしていると、畝の間が狭い、それじゃあ腰を下ろして作業できない、ということだった。Mさん、ズバッと本質を突いてくる。そうなのだ、こういうところにぼくという人間のいじましいさが表れるのだ。あれこれと小さなことを惜しんでろくな収穫のなかった過去から全く学んでいない。いや学んだとしても地金がひょっこり顔を出すのだ。

「三十八年、月々決まった給料もらってましたからね。せせこましいサラリーマン根性が染みついていると思います。」

自虐っぽいが正直な思いを言う。さすが先生である。つまらん同情はしない。

「まったくその通り。」

30代フリーター　やあ、ジイさん。女性たちがゆとりを失っているのではないか。とりわけ若い女性が。街路や駅やショッピングモールなどですれ違いざまに一瞬目にする彼女たちの視線は「クソッ」とでも言いたげな怒りを含んでいるように見えることがある。

年金生活者　こんなツイートを目にした。国立社会保障・人口問題研究所が実施している「出生動向基本調査」によると、女性が考える結婚の利点は「自分の子どもや家族をもてる」「愛情を感じている人と暮らせる」「精神的な安らぎの場が得られる」が減り、「経済的に余裕がもてる」「社会的信用」「生活上便利」が増える傾向にある。それは女性が自己中心的な損得で結婚を考えるようになったからだという指摘だ。

もしそのとおりだとすれば、それだけ女性が追い詰められ、他を顧みるゆとりを失っていることを意味する。人はだれでも追い詰められると自分のことしか考えられなくなる。

30代　どんなぐあいに追い詰められているんだ。

年金　3方向から追い詰められているはずだ。そのわけを説明するには女性性というものが3つの要素から成り立っていることに触れておかなければならない。

要素のひとつは母としての女性性であり、もうひとつは娘としての女性性、そして姉妹としての女性性だ。これらは実際に子を持っているかどうか、親が実在しているかどうか、きょうだいがいるかどうかとは関係なく想定し得る。

それらの女性性が今いずれも困難に直面している。母としての女性性は子育ての大変さに、娘としての女性性は世のオヤジたちの無理解に、そして姉妹としての女性性は仕事上の処遇をめぐる差別に、それぞれ追い詰められていると考えることができる。

子育てでは仕事との両立という、これまでの男性にはなかった課題を背負わされている。さらに現代の子育てはお受験という言葉に象徴されるようにかつてとは比較にならない費用が教育にかかる。

オヤジたちの無理解はいつセクハラやパワハラとなって襲いかかるかもしれないという警戒を解くことができない。

姉妹としての女性、中でも若い女性にとって、兄弟に相当するのが職場の若い男性たちだ。彼らはオヤジ世代のように女性を見下す態度を示すことはないだろう。しかし、女性の管理職が圧倒的に少ない現実は平等の不在を示している

30代　昔はもっとひどかった。今はだいぶよくなったのではないか。ゆとりがなくなるどころか、増えているはずだ。そんな異議が聞こえてきそうだ。

年金　昔と今ではそれを測る物差しがまるで違う。女性への処遇のあるべきレベルが今はずっと上がっている。それに達しない現実は女性にとって昔よりもきつい桎梏として感じられているはずだ。

背景にはジェンダーフリーの思想の普及、浸透がある。もしそれがなかったら、女性たちはそれほど追い詰められているという感じを持たなかっただろう。しかし、それはジェンダーフリーの思想を放棄したほうがいいということを意味しないのは断るまでもない。

30代　女性性について言えることは男性性にも言えそうだ。

年金　男性は女性に対して、母か姉妹か娘のいずれかにかかわるようにしかかかわれない。母に対しては愛と憎しみが、姉妹に対しては共感と怒りが、娘に対しては喜びと悲しみが、男性の感情の山と谷を形づくる。そしてふだんはそのいずれでもないニュートラルな感情が平地を形成している。

息子としての男性は、自分を母胎の楽園からこの世界の荒れ野に追放した母を憎む。だが、その荒れ野で再会した母から全面的な庇護を受けることによって彼女を愛するようになる。

兄弟としての男性は姉妹と結束して親に対抗する。共感がその接着剤となる。他方で、親をめぐって反目し、怒りをぶつけ合う。

父としての男性は、娘の誕生を妖精との出会いのように喜び、かつて暮らしたことのある母胎の楽園からの使者のように迎える。だが、彼女はやがて自分以外の男性のもとへと去っていき、悲しみをもたらす存在ともなる。

30代　そんな女性たちに男性はどう向き合えばいいんだ。

年金　村上春樹は自らの作品の中の女性を3つのタイプに分類している。長編『1Q84』の登場人物で言えば、第1のタイプは「ふかえり」のように、男性を導く巫女的な女性だ。第2のタイプは自立した女性で、作品では女性の主人公の「青豆」に代表される。そして第3は男性の主人公のガールフレンドのように男性の前から消えていく女性だ。

私の解釈では、第1のタイプの巫女的な女性は、息子を導く母としての女性であり、第2のタイプの自立した女性は、兄弟と対等な姉妹としての女性に相当する。そして第3の消え去る女性は、父のもとを去って他の男性のもとへ向かう娘としての女性だ。

たぶん男性が女性に対して覚えるすべての感情は、いずれもこの3つのタイプの女性のうちどれかのタイプの女性との間で生じる感情に分類できる。女性との関係に悩んだり苦しんだりしているとき、その感情がどのタイプに属するか知ることは、その辛さに耐えやすくしてくれるはずだ。

ニュース日記　846

中村　礼治

女性たちはゆとりを失っているのか